



学長挨拶

國分 充

東京学芸大学 学長

東京学芸大学附属特別支援学校は、昨年度創立70周年を迎え、わが国で最も古い歴史をもつ特別支援学校のひとつとして、わが国の知的障害児の教育を先導してまいりました。近年では、特別支援教育の進展の中、生涯発達支援を校是とした取り組みを進めるとともに、教育研究の面では、大学附属であるという利点を生かし、本学教員と共同研究を進め、その成果として研究協議会を開催してまいりました。私もかつては、知的障害心理学を専門とする大学教員として本校の研究に参加して参りました。今年度の研究テーマは「知的障害教育における探究的な学びの創造」で、次期学習指導要領の重要な柱を先取りしたものとなっております。どうぞ本校の取り組みにご注目頂き、ご参加いただければ幸いです。



校長挨拶

奥住 秀之

東京学芸大学
特別支援科学講座教授

周知のとおり、「探究的な学び」は次期学習指導要領との関連で注目されているテーマです。令和7年9月に「教育課程企画特別部会」が公表した「論点整理」には、「総合を中核としつつ各教科等も含めた形で探究的な学びを一層重視する」と提起されています。知的障害のある幼児児童生徒は、障害特性や発達の状況等と関連して一人ひとりが個性的な「強さや弱さ」を有しているわけですが、このような「多様性を包摂」する探究的な学びをどのように創造し、展開するか、本校教員は試行錯誤を繰り返してきました。ぜひ多くの方々に研究協議会にご参加いただき、忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

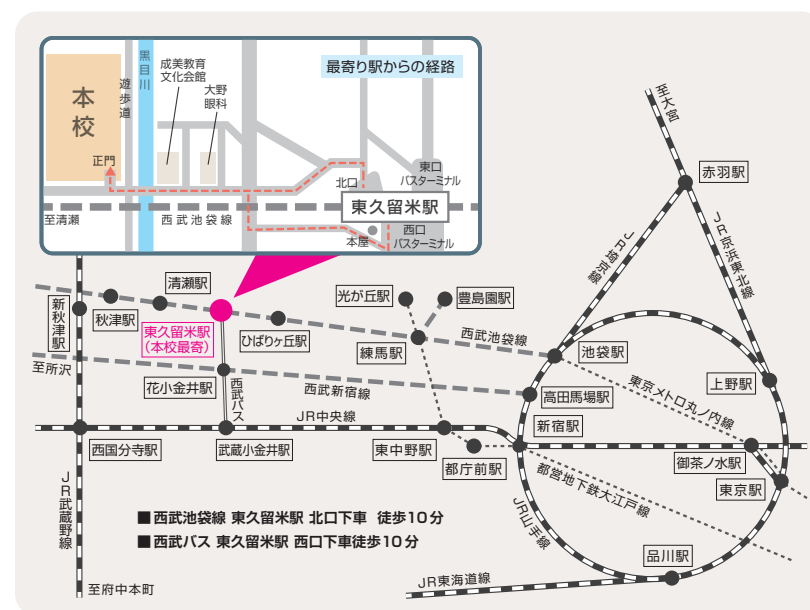
参加費

2,000円

参加費は、当日の受付にてお支払いをお願いいたします。
(お釣りのないようご協力ください)
昼食の準備はありませんので、各自でご持参ください。

アクセス

西武池袋線東久留米駅より徒歩10分



申込方法

本校ホームページの申込フォーム
または、下のQRコードよりお申込みください。

締切は 令和8年1月16日(金)です。



個人情報の使用目的について 本フォームでご記入いただいた個人情報(氏名・ご連絡先などは、本会開催に関わるご連絡・ご案内のために使用いたします。その他の目的で使用することはありません。
・お申込みいただいたメールアドレスに協議会のご案内を送付予定です。@u-gakugei.ac.jpから受信できるように設定をお願いいたします。

東京学芸大学附属特別支援学校 担当者:研究主任 岩井祐一

〒203-0004 東京都東久留米市氷川台1-6-1 TEL: 042-471-5274 FAX: 042-471-5275 <https://www2.u-gakugei.ac.jp/~tokushi/>



後援:東久留米市

東京学芸大学附属特別支援学校 主催

研究協議会

知的障害教育における 探究的な学びの創造〈1年次〉

令和7年度より、本校では新たなテーマのもと、

2年間にわたる研究がスタートいたしました。

今回の研究では、「探究的な学び」を中心に取り組みます。

発達段階に応じた探究の在り方を検討し、

教育活動の中で実践的に展開していくことを

目指します。

本研究協議会では、特別支援教育に携わる

教職員の皆様と共に、探究的な学びの実際を共有し、

今後の教育実践へとつなげていくことを

目的としています。

令和8年

1/23

金

会場

東京学芸大学附属特別支援学校
(対面開催)

タイムテーブル

9:00-9:20 受付 >> 9:20-9:50 全体会 あいさつ・研究概要

10:00-10:50

1 公開授業



11:00-12:05

2 講演1

小宮山 利恵子

東京学芸大学大学院教授、
株式会社リクルート
スタディサプリ教育AI研究所所長

昼
休
み

12:05
~
12:45

12:45-14:10

3 分科会



14:20-16:30

4 講演2

栗原 慎二

広島大学名誉教授、公益社団法人学校教育
開発研究所(AISES)代表理事、博士(学校
教育学)、日本学校教育相談学会会長

※学部によって授業時間が異なります。

1

公開授業 10:00~10:50

共通テーマ 探究的な学びについての授業実践

公開授業では、幼稚園から高等部までの多様な学びの場における「探究的な学び」の実践をご紹介します。子どもたちは自分の興味や課題に向き合い、仲間と協力しながら考えを深めています。一人ひとりが主体的に学び、共に成長していく姿を、ぜひご覧ください。

ポイント

幼稚園から高等部
まで10の授業を
参観できます！

授業内容			担当教員
幼稚園		朝のあつまり「好きな歌やお話で遊ぼう」 幼児一人ひとりには、好きな歌やお話があります。繰り返し好きな歌やお話を楽しむ姿が見られます。さらに、友達が好きな遊びも一緒に楽しむことを目指した授業実践をおこないます。	池田 菜緒、蓮香 美園、 溝江 有里子、小家 千津子
小学部	1・2年生 星組	国語・算数「ことばとかずであそぼう」 星組では、手遊びや絵本など子供たちが好きなことを教材化し、「やってみよう」と主体的に動く経験を積み重ねています。本授業では児童の“好き”と“ことば・かず”との結び付きを大切にし、自ら学ぼうとする姿を目指します。	櫻井 希、柴田 琢磨、 田口 淑乃、沼田 稔哉
	3・4年生 空組	図画工作「つくろう」【題材は11月に実施される「おみせをひらこう」の取り組みを踏まえて検討する】 空組では、みんなで楽しみ、みんなで頑張り、心からの「見て、見て!」が溢れる学級を目指しています。図画工作においては、造形活動と「遊ぶ・使う・贈る・彩る（飾る）」ことの結び付きを大切に指導しています。	小島 啓治、松本 真由子
	5・6年生 海組	調理「自分のお弁当を考えよう」 海組では、児童が主体的に考えて行動する経験を日々積み重ねています。本授業では、児童の「コレ、食べたい!」「コレ、作りたい!」に着目し、調理実習へ向けた期待感を高めていく授業を目指します。	玉木 秋樹、藤田 貴史
中学部	グリーン グループ	国語「インタビューに挑戦しよう」 「一つの質問を多くの人に尋ねる手法」と「一人の人に多くの質問をする手法」の2つの手法を学び、内容に応じて選択・活用する力を育てます。グループでテーマを決め、インタビューを実施し整理します。	松田 愛理子、森本 章
	レッド グループ	国語「インタビューの準備・練習をしよう」 本単元では、生成AIやメタバースを活用し、インタビュー活動に向けた準備と練習を行います。生成AIとの対話を通して質問内容や表現方法を検討したり、メタバース空間で模擬的にやり取りを体験します。	岩井 祐一、樋之口 礼
	ブルー グループ	国語「インタビューをまとめよう」 関係性が異なる相手でも、同じ手法で正しくインタビューができるよう学びを深めます。当日は、実施したインタビュー活動を振り返り、インタビューの内容を書いたワークシートを模造紙に貼り、ポスターを作成します。	沼澤 聡子、富山 正人
高等部	1年	進路「2年生に向けて、1年間の経験を整理しよう」 初めての現場実習での経験を取り上げ、就労への関心につなげる授業実践を行う予定です。思考ツールを使いながら経験の整理・分析を行い、1年間をまとめていきます。	片岡 真悠、松井 洸樹、 森 敦子
	2年	進路「3年生に向けて、現場実習の成果と課題を整理しよう」 現場実習の成果と課題を確認し、自分の適性について考えることを目指した授業実践を行う予定です。思考ツールを使いながら経験の整理・分析を行い、1年間をまとめていきます。	小田 滋大、岩本 悠希、 廣島 幸子
	3年	進路「卒業後に向けて、3年間の学びを整理しよう」 3年間の進路学習で得た学びを振り返り、自分なりの夢や卒業後の暮らしを見通すことを目指した授業実践を行う予定です。思考ツールを使いながら経験の整理・分析を行い、3年間をまとめていきます。	山内 裕史、表 賢司、 折原 さくら

* 授業内容は現時点のものであり、協議会当日の公開授業内容は変更となる場合がございます。

2

講演1 11:00~12:05 講演後、濱田 豊彦氏（東京学芸大学教授）との対談を行います。

テーマ ゼロからイチを生み出す子どもたちへ ―AI時代に必要な学びとは―

AIが急速に進化する時代に、子どもたちが自ら考え、ゼロからイチを生み出す力はますます重要になります。本講演では、未来を切り拓く創造力や探究心を育むために、家庭や教育現場に必要な学びの姿についてお話いただきます。続く対談では特別支援教育における学びとの接点を探り、未来を切り拓く学びの姿を共に描きます。

講師 小宮山 利恵子 東京学芸大学大学院教授、株式会社リクルート スタディサプリ教育AI研究所所長



Photo:山田ミユキ

1977年東京都生まれ。早稲田大学大学院修了後、衆議院にて国会議員秘書。その後、株式会社ベネッセコーポレーションにて会長秘書等を経て、2015年よりリクルート教育研究所所長。東京学芸大学大学院教授を兼務。教育とテクノロジー、アントレプレナーシップ（起業家精神）領域を探究。AI時代における「人間にしかできない力」をテーマに、現場体験や五感、身体知を重視した教育実践を推進。「船 銀座おのでら」で修行、「船 銀座おのでら 船アカデミー」寿司職人コース修了。狩猟免許も取得し、栃木県や鹿児島県等で活動中。著書に「好奇心を学びに変える『なぜ?どうして?』の伸ばし方」（ディスカヴァー・トゥエンティワン、2025年）、「教育AIが変える21世紀の学び」（共訳、北大路出版）、「レリア力で生きる「競争のない世界」を楽しむための学びの習慣」（KADOKAWA）、「新時代の学び戦略」（共著、産経新聞）等。



「好奇心でゼロからイチを生み出す『なぜ? どうして?』の伸ばし方」（ディスカヴァー・トゥエンティワン、2025年）

対談 小宮山 利恵子 × 濱田 豊彦 東京学芸大学副学長

濱田 豊彦

博士（教育学）／文部科学省特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議委員（2021年9月～2022年3月）。専門は、聴覚学（Audiology）・発達心理学等。著書には、特別支援教育のための障害理解：未来に開かれた教育へ（監修、金子書房）等がある。

3

分科会 12:45~14:10

共通テーマ 各学部における探究的な学びを考える

本協議会の分科会では、学部ごとに分かれて実施をします。公開授業の振り返りや各学部で設定した研究テーマを基に、協議を深めていくことができればと考えております。是非、様々なご意見をいただければと思います。また、共同研究者からの助言やミニ講演も予定しております。

幼稚園

テーマ

幼児の「好き」を広げる支援を検討する

共同研究者 橋本 創一*、松本 幸代*、村尾 愛美*

幼児にとって好きな遊びがあることは、興味関心を引き出す手がかりとなり、さらに探究する姿に繋がると考える。幼稚園では、「朝のあつまり」の実践を通して、幼児の「好き」を広げる支援を検討してきた。子どもたちが楽しんでいる様子や保護者アンケート等から、子ども一人ひとりの「好き」を把握した上で、「好き」を広げる支援を考え、授業実践に活かしてきた。本分科会では、「好き」を広げる支援について考えていきたい。

ポイント

子どもの「好き」を出発点にした
学びを考える

小学部

テーマ

探究的な視点で捉え直す小学部の授業づくり

共同研究者 小林 巖*、平田 正吾*、村山 拓*

小学部段階での探究的な視点で捉え直す授業づくりを考える。授業を通した児童の興味や経験から生まれるエピソードを手がかりに、児童自身が課題を認識し、児童の「やってみたい!」を重視した授業づくりのプロセスを提案したい。さらに、そのプロセスを省察することで、児童理解や教材構成を深める。本分科会では具体的な授業実践や省察の共有を通して、探究的な学びを促す授業デザインについて協議する。

ポイント

授業実践や
省察の共有を
通して探究的な
学びを考える

中学部

テーマ

探究的な学びにおける「情報の収集」に焦点を当てた授業実践の検討

共同研究者 池田 吉史*、田中 美歩*、藤野 博***

中学部では、探究的な学びにおける「情報の収集」の一つの方略として「インタビュー」に焦点を当て、「国語」の教科学習において授業実践を行う。生徒の実態に応じた3つの段階的な指導を行うことで、インタビューに必要な資質・能力の育成や、確実な習得を目指している。分科会ではこれまでに蓄積した探究的な学びの実践を踏まえながら、情報の収集におけるインタビューの授業実践や段階的な指導の効果について、今後の授業づくりや支援に繋がるよう協議していく。

ポイント

教科における
情報活用能力の
育成を考える

高等部

テーマ

探究的な学びの姿を育む支援のあり方に関する一考察

共同研究者 池田 一成*、内海 友加利*、大鹿 綾*

高等部では、卒業後の生活を見据え、自分の可能性や適性を発見し、自分なりの生き方を探究して選択・決定できるようにすること、また生活の幅を広げられることを目指して、「就労支援」の領域において「進路学習」を設定している。今年度は、高等部段階における「探究的な学びの姿」について、「探究的な学び」を充実させるための支援に焦点を当てた取り組みの検討を進めてきた。分科会では、「探究的な学びの創造」を実現するための授業づくりや支援の実践を踏まえ、参加者の皆様と協議を深めていきたいと考えている。

ポイント

進路学習を通した
探究的な学びに
ついて考える

全体共同研究者 澤 隆史*、濱田 豊彦***

*東京学芸大学特別支援科学講座 *東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター ***東京学芸大学教職大学院

4

講演2 14:20~16:30

テーマ 多様な子どもが輝く学校を マルチレベルアプローチでデザインする

探究的な学びを実現するためには、一人ひとりの成長を支えると同時に、安心して挑戦できる学級や学校の風土づくりが欠かせません。本講演では、SEL、ピアサポート、協同学習、PBISといった多面的なアプローチをもとに、子どもたちの主体性と協働性を育む具体的な実践を紹介します。演習も交えながら、これからの学びを支えるアプローチについて共に考えます。

講師 栗原 慎二

広島大学名誉教授、公益社団法人学校教育開発研究所（AISES）代表理事、博士（学校教育学）、日本学校教育相談学会元会長



埼玉県内の高校3校で教員として18年間勤務した後、2003年より広島大学大学院に勤務。研究と実践の架け橋となるような活動を行っている。主な研究テーマは、ピア・サポート、ブリーフカウンセリング、協同学習、不登校の子どもたち・保護者への支援等。また、文部科学省「生徒指導に関する教員研修の在り方研究会」委員、「不登校生徒に関する追跡調査研究会」委員、「生徒指導提要の改訂に関わる協力者会議」委員等を歴任。また、栗原氏が提唱するMLA（マルチレベルアプローチ）は、特別支援学校でも実践が行われ、NITS（独立行政法人数職員支援機構）より表彰を受けている。主な著書には、『教育相談コーディネーター』（ほんの森出版）、『PBIS 実践マニュアル&実践集』（ほんの森出版）、『マルチレベルアプローチ だれもが行きたくなる学校づくり 日本版包括的生徒指導の理論と実践』（ほんの森出版）等。



PBIS 実践マニュアル
&実践集（ほんの森
出版、2018年）